

Japan ELV Recycler's Association

JAZRA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- □巻頭言/日本自動車リサイクル機構部会の取組み紹介 … P1 □賛助会員新プランのご案内/JAERAオフィス移転のご報告 … P2
- □第58回産構審・中環審合同会議 酒井代表理事が委員として出席/北海道自動車処理協同組合(北海道支部)
 - 北海道と災害協定を締結 ··· P3 □岩手県支部 適正処理地域講習会を開催/各ブロック会議の活動報告 ··· P4
- □2024年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業1月出荷状況と今期累計 /1月新車販売・使用済自動車発生台数 ··· P5
- □鉄スクラップ最新情報 … P6 □行事予定・お知らせ / 編集後記 … P7

vol. 179

日本自動車リサイクル機構 部会の取組み紹介

01

自動車リサイクル機構(JAERA)の本部組織の中には、5つの部会と1つの委員会があります。今年度、JAERAでは会員の数を増やす「会員増強」を一つの目標に掲げ、現在、未来部会が中心にリサイクル技術部会、広報部会と連携して検討を行っています。

部会の活動はなかなか表には出てこないこともあり、どのような活動を行っているか知らない方も多いと思います。そこで今回は、この3つの部会がそれぞれどんな部会かをご紹介いたします。

未来部会

【構成】6名 部会長:吉岡 篤史(北海道:二協自動車商会) 【役割】次世代の解体業界を見据え、業界を担う人材の育成 や新しいアイデアや提言を行う。

【主な活動内容】

- ・会員増強活動の検討や取りまとめ
- ・会員の方々に向けた見学会や勉強会などの企画

【吉岡未来部会長】

リサイクル技術部会(通称:RT部会)

【構成】4名 部会長:佐々木健二(岡山県:佐々木商店) 【役割】リサイクル技術の高度化を図る活動を行う。

(現在は自動車リサイクル士制度に関する事業を担当) 【主な活動内容】

- ・自動車リサイクル士講習会の企画・運営
- ・自動車リサイクル士制度について、解体業界や国・自治体・ 関係団体に向けた普及活動



【佐々木RT部会長】

広報部会

【構成】6名 部会長:田村 幸男(福島県:タムラ部品商会) 【役割】環境への配慮や法律の遵守など、自動車解体業界に焦 点を当てた広報を行う。

【主な活動内容】

- ・ニュースレターの企画・発刊
- ・機構ホームページやSNSなどの企画・運営



【田村広報部会長】

巻頭言

「冬来たりなば春遠からじ」とい うイギリスの詩人シェリーの名句 があります。厳しい冬がやって来 たならば、次には暖かな春がそこ まで来ているという意味ですが、 私の住む東北、山形ではかつて経 験したことがないほど積雪量が少 なく、もっとも寒さが厳しいとい われる大寒も、厳しさとはほど遠 い穏やかな一日でした。春は果た してどうなってしまうのかと不安 にかられてしまう今日この頃です が、ちなみにこの名句には季節の 移ろいのみならず、もう一つ意味 が隠れています。それはどんなに 現在が不遇であってもその先には 明るい希望の日々が待っているも のだ、といったたとえです。

目下、我々の自動車リサイクル 業界は厳しい環境下におかれてい ます。東北の冬とは真逆のように 思えますが、こと業界の厳冬にお いては、この言葉を信じ乗り切り たいものです。

〈広報部会 永田 則男〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋 2 丁目 11-10 BUREX FIVE 708

TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

賛助会員 新プランのご案内



JAERAでは、機構の活動や目的に賛同していただける法人の皆様に「賛助会員|となっていただき、これまで 各方面でサポートしていただいておりました。いわゆるJAERAのファンとなってくれる賛助会員を更に増やす べく、この度、賛助会員の新プランを立上げ、2024年の4月から開始することになりました。

従来のプラン

一般会員へ製品やサービスの 紹介など個社単位で提供

年会費:6万円(税込)

新プラン

- ニュースレターでの企業紹介
- ▶一般会員に対して、製品や サービスのプロモーション※
- ▶ブロック会議など、JAERA内の 会議に参加
- ▶他、一般会員にメリットのある 活動の支援など

年会費:10万円(税込)

※一般会員にメリットのある内容に限定

新プランでは、ニュースレターへの企業紹介や、製品・プロモーションなど、賛助会員と一般会員の関係を 深めて、相互にメリットのあるように展開する予定です。

詳しくは下記URLをご確認いただくか、機構事務局までご連絡ください。

詳細はこちら ▶ https://www.elv.or.jp/32-80-0.html



【ご報告】JAERAオフィス移転しました!

機構本部の事務所の移転が完了し、2024年3月1日より正式に業務を開始しております。前号でもご案内し ましたが、場所や連絡先は以下のとおりです。

■虎ノ門アサヒビル 3階(〒105-0003 東京都港区西新橋1-11-3)

■TEL:03-3519-5181 (変わりません)

■FAX:03-3597-5171 (臨時の番号から従来の番号に戻りました)

※郵送物等に関しましては、今後上記の住所へお送りください。

昨年7月の爆発火災から、皆様の温かい声援とご協力に支えられて移転できま したこと、心より御礼申し上げます。これからも会員の皆様に対してより一層 充実したサポートが行えるよう精進して参りますので、今後ともよろしくお願 いいたします。(事務局員一同)

■ニュースレター購読申し込み

【登 録】以下のURLからお申込み下さい▼

https://forms.office.com/r/vast5G9cg9



【虎ノ門アサヒビル】

https://forms.office.com/r/eZgjntdcVZ

第58回産構審・中環審合同会議 酒井代表理事が委員として出席



2024年1月26日(金)第58回産構審・中環審合同会議がオンラインで開催され、解体業界の代表として酒井代表理事が委員として出席しました。本記事では酒井代表理事が会議内で発信した内容について報告をいたします。

①自り法施行状況の報告を受け

- ■解体業者は零細を中心に日本人業者が減少し、外国人業者の増加が実態。JAERA調べでは、全国約 1,000社が外国人業者で、すべての外国人業者をダメとは言わないが問題が多いのは事実、対策を強 化すべき。
- ■リサイクル料金の輸出返還制度については、わずかな期間、所有者になる輸出業者に利息付で返還するのは公正ではなく、廃止すべき。解体業者が仕入時にリサイクル料金を負担しなければならない現状からも不公平な競争。

②各種取組状況の報告を受け

- ■資源回収インセンティブ制度では、中小事業者でも希望すれば制度に参加できる仕組みをJAERAとして作りたい。
- ■フロン類、エアバッグ類料金は適正とのことだが、コストは確実に上がっていてフレキシブルな見直しを要望する。また、リサイクル料金の実費請求方式が採用されるが、この機会に自車充当方式から他車充当方式への議論につなげてもらいたい。他車充当方式により解決する問題が多くあると考える。

これらの意見(一部を除く)は、2020年に行われた自り法15年目の評価・検討の議論から主張してきている 意見です。

各団体からの報告内容には我々の業界に関わる取り組み等(例:自工会LiBリビルト対応構想など)もございますので、是非以下の会議資料をご一読ください。

■第58回産構審・中環審合同会議

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/sangyo_gijutsu/resource_circulation/jidosha_wg/058.html

北海道自動車処理協同組合(北海道支部) 北海道と災害協定を締結



北海道自動車処理協同組合(以下、北自協)と北海道は、「災大規模災害発生時における被災自動車の撤去等に関する協定」について、2024年1月25日(木)北海道庁本庁舎にて締結式を行いました。

この協定は、北自協と北海道の間において、大規模災害発生時に 被災市町村等が行う「被災自動車の撤去及び移動」の円滑かつ迅速な 処理における支援について、必要な事項をあらかじめ定めたもので す。石上理事長は、「廃車処理は我々業界のできる社会貢献であ り、万が一に備え準備を進めたい。」と決意を述べられていました。

記憶に新しい「令和6年能登半島地震」など、近年、大規模災害が 多発していることを背景に機構各支部でこのような取り組みが進め られています。

大規模災害発生時における被災自動車の撤去等に関する協定」締結:

写真左:加納孝之北海道環境生活部長 写真右:石上剛北自協理事長兼北海道支部長

岩手県支部 適正処理地域講習会を開催

06

1月26日(金)、ホテルエース盛岡(岩手県盛岡市)にて岩手県支部主催の適正処理地域講習会が開催され、会員8社から8名が受講しました。

(一社)自動車再資源化協力機構フロンエアバッグ事業部の藤部長から「エアバッグ類とフロン類の適正な処理について」、(株産業新聞社の秋田東北支局長から「自動車リサイクルと鉄鋼業界の将来の展望」、日本自動車リサイクル機構の平地ブロック長会議長(兼東北ブロック長)から「機構本部活動と現在の動きについて」それぞれご講演いただきました。

参加者からは、「遵法意識を深めることができ、更に業界の現況についても理解を 深められた。何よりも参加者全体で自動車リサイクルの展望について意見交換でき



【参加者の皆様

たことが有意義であった。」とのことでした。また、講演後に開催された懇親会では、講習会を経て生じた疑問や、情報や意見交換などが活発に行われておりました。

各ブロック会議の活動報告

07

沖縄ブロック会議

2月2日(金) N.B.C日本ブライダルセンター (沖縄県沖縄市)

機構本部からは酒井代表が出席され、総勢 28 名が集まる形となりました。会議では機構の活動状況や、今後の業界の展望について意見や情報の交換が行われた後、酒井代表からは「第58回の合同会議」(P3 参照)で発言した内容について、出席者に改めて説明を行われ、業界の現在地や今後について理解が深まる会議となりました。



【酒井代表(左) 松田沖縄ブロック長(右)】

中国・四国ブロック会議

2月13日(水) サムライスクエア (岡山県岡山市)

各支部長とオブザーバーを含む 12 名の方が一堂に会し、各支部からの情報提供や問題提起が活発に行われました。例えば、小型電気自動車の廃車が発生した場合の取り扱いについての情報交換や、関連して現在機構が制度参画窓口となっている次世代モビリティリサイクラー制度について改めて説明がありました。

また、依然として廃車の仕入台数が少ない状況で、従来の三本柱である部品、素材、輸出では成立しなくなるため、事業の多角化が検討されるべき時期に差し掛かっているのではないかとの意見が挙がりました。



【会議の様子】

近畿ブロック会議

2月16日(金) ユーズツウ (大阪府大阪市)

今回の会議には15名が集まり、機構本部からは酒井代表、埜村副代表が出席されました。各地域からの情報提供の中で、廃車の仕入価格が異常なほど高止まりしているなか、危機感や自社の事業形態を見直す必要性を感じているといった発言から、経営についての意見交換が活発に行われました。会議後には㈱マーブルイノベーションの松尾 久美子様より「職場環境が劇的に変化!スムーズに仕事を進めるための色コミュニケーション術」の講演があり、自身の職場環境を見つめ直す意識が芽生える内容となりました。



【会議の様子】

東北ブロック会議

2月22日(木) 仙台中小企業活性化センター (宮城県仙台市)

機構本部からは木内副代表が参加され、ブロックとしての今期の活動報告、機構本部の報告を経て機構の活動全体を改めて理解が深まる会議となりました。

また、今後の各支部や地域での活動についても議題に挙がり、コロナが明けたという状況で、各支部などの活動を盛り上げて活性化していくためにはどうしたら良いかなど、参加者で知恵を出し合いながら意見交換が行われていました。



【会議の様子】

2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 1月出荷状況と今期累計



上段:1月出荷数 下段:今期累計 単位:個

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウン HV GWS204	クラウン HV AWS210
17	0	25	1	1	41	1	0	2
67	78	363	6	1	535	14	8	9

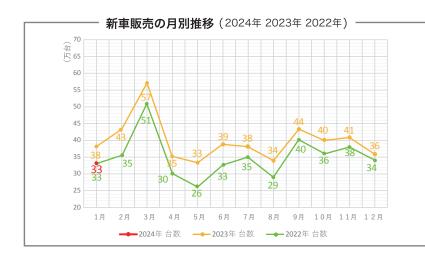
SAI/ レクサス HS250H	日産デュトロ / ブルーリボン	ノア /ヴィクシー / エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品 A~C	合 計
2	0	2	2	0	0	0	8	85
11	61	23	8	3	0	1	161	1282

□2022年度の結果はこちら▶ https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853

1月新車販売・使用済自動車発生台数



■2024年1月度 新車販売台数 334,876台 (前年同月比87.6%)



過去の新車販売台数推移						
年累計	台数	前年比(%)				
2024年 (1月まで)	334,876	87.6				
2023年	4,779,086	113.8				
2022年	4,201,320	94.4				
2021年	4,448,340	96.7				
2020年	4,598,615	88.5				

※出所:一般社団法人 日本自動車販売協力連合会

■2024年1月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況



引取件数						
1月	195,989件(前年同月比105.8%)					
フロン回収工程						
1月	176,828件(前年同月比107.1%					
解体工程						
1月	204,159件(前年同月比106.6%)					

※出所:公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

鉄スクラップ最新情報

10

[提供:日刊市況通信社]

2月第5週 (26日) の鉄スクラップ動向



2月26日の国内スクラップ炉前実勢価格 (中心値)

		H2	気配
	北関東	52,000 ~ 54,000	堅調 様子見
関東	南関東	52,000 ~ 54,000	堅調 様子見
	浜値	53,500 ~ 54,000	堅調 様子見
2	古屋	51,500 ~ 53,000	様子見
関	大阪	52,500 ~ 53,500	様子見
西	姫路	52,500 ~ 53,500	様子見

トルコ輸入相場が小幅続落 HMS1&2(80:20)米国玉CFR410 %強

弱含み気配が続くトルコの輸入鉄スクラップ市場で、米国玉およびバルト海玉の新規成約が決まり、成約価格はさらに値を下げる展開となった。この動きによりトルコの輸入鉄スクラップ相場も小幅に続落した。

商談は依然として多くはないが、2月第3週には米国玉の成約でHMS1&2(80:20)がCFR414~415 %を付けたほか、英国玉のHMS1&2(80:20)がCFR410 %で決まった。直近の成約では、バルト海玉のHMS1&2(80:20)がCFR409.50 %、ボーナス(HS相当)がCFR429.50 %を付けた。バルト海玉と米国玉の一般的な価格差は3~5 %程度で、実質的には米国玉HMS1&2(80:20)の中心値はCFR410 % 強の水準に下がっている。

トルコミルは、トルコ産の鋼材価格が値下がりした影響もあり鉄スクラップの購入価格を引き下げたい意向が強いが、欧米シッパーは冬の発生減や輸送コストの上昇などから値下げに対して強く抵抗している。このためトルコの輸入鉄スクラップ価格も弱含み気配が続くものの断続的に小幅な下落となる程度に収まっている。

なお東京製鉄によると、2月第4週入り時点の海外向け商談の鋼材市況はホットコイルがFOB620~630 %、H形鋼がFOB760~780 %で、前月比横ばいで推移中だ。

【関 東 地 区】 需要家各社 入荷動向を様子見

関東市場の鉄スクラップ市況は様子見商状の推移となっている。15日以降、需要家各社は鉄スクラップ 購入価格を概ね2,000円どころ引き上げて1月下旬の値下がり前の価格水準に戻し、引き合いを強めた。そ の後、一部追加値下げの動きが散見され、堅調感を残した推移となっている。H2炉前実勢価格は52,000~ 53,000円中心、高値53,500~54,000円見当。H2浜値は53,500~54,000円見当で、電炉購入価格の中心値 と同水準。

【東 海 地 区】 様子見商状のまま2月最終週へ

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、様子見商状のまま変わらず2月も最終週を迎えた。2月は関東テンダーが前月並み(H2・FAS=53,087円)に落ち着いたことで、東京製鉄・田原工場は前月17日に一律2,000円値上げし特級価格を陸・海上共に53,000円としてからは動かず、他の地区電炉にも前月の改定以降は表立った動きは見られない。H2炉前実勢価格は51,500~52,500円中心、高値53,000円見当のままで推移している。

【大阪地区】 保合い商状で動意材料に欠いたまま月末入り

大阪地区の鉄スクラップ市況は保合い商状にある。電炉入荷に改善が見られるが、3月に向けて在庫回復を図らなければならず、市況はなおも動意材料を欠いたままだ。地区内では下旬から2社が炉休入りとなり、先週後半には荷止めを行った影響もあり、他の電炉筋にとっては安定もしくは入荷上積みが図れたもよう。H2炉前実勢価格は、大阪地区が $52,500\sim53,500$ 円見当、姫路地区が $52,500\sim53,500$ 円中心となっている。53,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市况通信社調べ、2月26日午後時点のもの)

行事予定

- 3月の主な行事予定-



- ■3月1日(金)
 - ・JAERA新事務所での業務開始
- ■3月6日(水)
 - ·第11回 広報部会(対面)
- ■3月12日 (火)
 - · J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり) 定例会 (WEB)
- ■3月14日(木)
 - · J-FAR (樹脂リサイクル社会実装事業) 最終報告会 (WEB)
- ■3月26日 (火)
 - ・解体業者向け資源回収インセンティブ説明会(WEB)

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ

~自動車再資源協力機構(JARP)より~ **能登半島地震におけるフロン類・エアバッグ類集荷状況について**

令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

前号でもお伝えしたとおり、自動車再資源化協力機構(JARP)から、本地震による「フロン類・エアバッグ類回収集荷状況について」、続報がございましたので、お知らせいたします。(状況は依然として変わっていないようです)

【集荷遅延地域】

- ・石川県(羽咋市、中能登町、かほく市、宝達志水町、津幡町、内灘町)
- ※遅延は半日~2日以上

【現在も集荷不可が続いている地域】

・石川県(七尾市、志賀町、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市)

※2/22時点

編集後記

典型的な昭和人間の私が、昭和、平成、令和と生きている中で、最も温かさ、思いやり、やさしさを感じるのはやはり昭和時代です。

昭和の思い出深い瞬間の一つは、某栄養剤ドリンクで知られる「24時間戦えますか?」のCMです。「ドリンクを飲んで頑張るぞ」という価値観に懐かしさがこみ上げますが、働き方改革が進む現在、24時間働くことなどもってのほかで、違法とされています。

もう一つ懐かしいのは歌で、平成の歌ではありますが、ZARDの「負けないで」には、失敗した時や落ち込んだ時に何度も励まされました。困難に直面すると逃げたくなることもありますが、「ゴールは近づいている、夢を追いかけて!」という歌詞をカラオケで歌うと、元気が湧いてきます。

また、早逝されたKANの「愛は勝つ」も、みんなで一緒に歌うと元気な気持ちになります。当時の歌をみんなで歌うことが私にとって元気の源であったように思えますが、最近ではなかなか元気の源に巡り合うことが少ない気がして残念です。

そうした中、今号の記事にもあるとおり、日本自動車リサイクル機構が元気の源となるべく、リサイクル 技術部会、未来部会、広報部会が三位一体となって色々と施策を検討しています。落ちこぼれのない健全な 業界を築くため、その実現に向けて、力を合わせて邁進していきたいと思います。

(広報部会長 田村 幸男)